



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 94 号

R5.1.21

文責 中西 勉



「30000 分の 1」の重み

先週 1 月 13 日（金）、冷たい雨の降る夜でした。私の父が、88 年の生涯を閉じました。父が亡くなって 1 週間が経ちましたが、改めて 1 日の重みをひしひしと感じる毎日です。

厚生労働省によれば、2022 年時点の日本人の平均寿命は、男性 81.47 歳、女性 87.57 歳だそうです。それを日数に換算すると、男性は「 $365 \times 81.47 = 29736.55$ 日」、女性は「 $365 \times 87.57 = 31963.05$ 日」となります。よって、分かりやすく表現すると、日本人の人生は「およそ 30000 日」であると言えます。「人生 30000 日」と聞いて、「30000 日もある」（長い）と感じられた方もみえれば、「30000 日しかない」（短い）と感じられた方もみえるでしょう。私は、圧倒的に後者の印象です。

過日、ある本を読んでいたら、「今日」という日はどういう日かということが、何通りかの表現で書いてありました。その中の一つに、「今日とは、昨日亡くなった人が、精一杯生きていと願った明日」というのがありました。それを目にして以来、私は今日という 1 日がいかに貴重なものであるかを痛切に感じるようになりました。当たり前のように訪れた今日ですが、それは人生の「30000 分の 1」のとても貴重なひとときを過ごしているのです。そして、今日という日は、二度と戻ってくることはありません。健康で元気に、楽しく今日を生きていられることに、心から感謝したい思いです。



現在、小学生の子供たちは、6 年生でもまだ 25000 日以上多くの日々が残っています。でも、1 日を無駄にすることなく、「30000 分の 1」の重みを感じながら、これからの毎日を自分の手で充実したものにしていってほしいと願っています。



予告なしの避難訓練 ～自分の命は、まず自分で守る～

今週 1 月 17 日（火）、2 時間目後の休み時間に、予告なしの避難訓練を行いました。今回は、「遠く灘沖で地震が発生し、岡崎でも震度 5 弱が観測された」という想定で実施しました。今年度の避難訓練は、今回で 4 回目ですが、子供たちに訓練の予告せずに行ったのは初めてでした。しかし、休み時間で遊びに夢中になっている中でも、校内放送で緊急地震速報が流れると、子供たちはそれぞれの場所で、まず自分で自分の身の安全を確保する行動をとることができました。

訓練を行った 1 月 17 日は、1995 年の阪神淡路大震災からちょうど 28 年となる日でした。28 年前のあの日、私は岡崎の自宅で、午前 5 時 46 分という早朝にも関わらず、大きな揺れを感じたことを今でもはっきりと覚えています。この地方には、近い将来、南海トラフ大地震が襲来する可能性がかなり高いです。今回の訓練が、非常事態に直面した際に、落ち着いて「自分の命は、まず自分で守る」行動をとることにつながると信じています。



▲身をかがめて自分の身の安全を確保する子供たち